

授業 科目	CC2G36	1単位	選択	演習	2学年前期	担当 教員	桜井 ますみ					
	健康指導法											
授業の概要	① 子どもの発達における健康の意義や役割について理解する。 ② 保育所や幼稚園において、園児たちが豊かな体験を通して健康を維持増進でき、心身ともに健全な発育・発達が可能となるよう援助する方法を学ぶ。 ③ 幼児期の終わりまでに必要な健康の習慣を定着させ、小学校への橋渡しができるよう将来的なつながりを持った具体的な知識・技術を身に付ける。											
到達目標				学習成果Ⅰ			学習成果Ⅱ			学習成果Ⅲ		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1. 幼児における心身の健康の意義を理解する。								◎			○	
2. 幼児自ら健康な心と体を育み、健康で安全な生活を作り出す力を養うために、幼児に対して『どのような環境を提供し、何をしたらよいか』を考察する。								◎			○	
3. 幼児および保護者が望ましい生活習慣を形成できるよう、保育者として必要な指導力を養う。								◎	○		○	
凡例 ◎：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために特に重要な目標、○：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はVページ参照												
	主 題	準備学習	本時の学習内容と到達目標						復 習			
1	領域「健康」のねらいと内容	テキストP99～126を読んでおくこと	領域「健康」のねらいと内容の考え方及び「健康」と他の4領域との関係性を理解する。(レポート作成)						この授業のねらいを見て、何が学べるか明確にする。			
2	良好な基本的生活習慣の形成	テキストP12～27を読んでおくこと	家庭、地域社会および園における良好な基本的生活習慣の形成を、健康の維持増進との関係から理解する。(レポート作成)						自分の日常を振り返る、改善すべきところを見つける。			
3	健康の保持増進	テキストP1～10を読んでおくこと	身近な環境である園や家、地域社会での生活において、子どもを主体とする健康の保持増進を図るにはどうしたらよいかを考える。						子どもの健康な生活において大切なことは何か。			
4	幼児の心身を育む生活環境構成	子どもが体を動かしたいと思うのはどんな時が調べておく。	子どもの健康の保持増進を図るための方法を具体的な方法を計画する。指導案作成1						発表を工夫する			
5	幼児の心身を育む生活環境構成	発表の準備	幼児の心身を育むための計画を発表する。						発表者の工夫について自分の意見を考える。			
6	幼児の心身を育む生活環境構成	発表の準備	幼児の心身を育むための計画を発表する。						発表者の工夫について自分の意見を考える。			
7	0～3歳児期における生活習慣と遊びと健康の関連	乳児の発達を振り返る	0～3歳児期における生活習慣と遊びと健康の関連について、子どもの生活および保育者の援助と配慮の観点から理解する。(情報機器の活用)						発達の要点と配慮をまとめる。			
8	4歳児期における生活習慣と遊びと健康の関連	4歳児の発達を振り返る	4歳児期における生活習慣と遊びと健康の関連について、子どもの生活および保育者の援助と配慮の観点から理解する。(情報機器の活用)						発達の要点と配慮をまとめる。			

9	5歳児期における生活習慣と遊びと健康の関連幼児の心身の発達特性に応じた環境構成と援助	5歳児の発達を振り返る	5歳児期における生活習慣と遊びと健康の関連について、子どもの生活および保育者の援助と配慮の観点から理解する。(幼児の心身の発達特性に応じた環境構成と援助を理解する。(情報機器の活用)	発達の要点と配慮をまとめる。
10	健康な心と身体を育む保育の実践方法	部分指導案を作成しておく	健康な心と身体を育む保育の実践方法を構想する。(模擬保育1)	できない部分をはっきりさせる。
11	健康な心と身体を育む保育の実践方法	部分指導案を作成しておく	健康な心と身体を育む保育の実践方法を構想する。(模擬保育2)	子どもの気持ちになって振り返る。
12	健康な心と身体を育む保育の実践方法	発表の用意をする	幼児の発達や学びの過程を理解し、健康に関わる具体的な指導場面を想定し方法を身に付ける。(教材研究、レポート作成)	本日の授業内容から自分が得たことを整理する。
13	健康な心と身体を育む保育の実践方法	発表の用意をする	幼児の発達や学びの過程を理解し、健康に関わる具体的な指導場面を想定し方法を身に付ける。(教材研究、レポート作成)	本日の授業内容から自分が得たことを整理する。
14	幼稚園・保育所における健康指導についてのプレゼンテーション	安全教育と健康管理についての基本を調べる。	幼稚園・保育所における健康指導についてのプレゼンテーション技法を習得する。	具体的プレゼンテーションを作っておく。
15	身近な環境中の健康阻害因子・危険因子と幼小連携の在り方	幼小連携との具体的事例を調べる。	身近な環境中の健康阻害因子・危険因子(事故、障害、衛生等)を調査確認する。特に、「リスク」と「ハザード」の区別を理解する。幼児を取り巻く課題を踏まえた幼小連携の在り方を理解する。	健康指導についてどれだけ知見を深めたか振り返り、まとめる。
成績評価	受講態度(20%)発表内容・課題など提出物(30%)期末試験(50%) 合計100%			
教員からのコメント	健康指導法は、健康な生活の基盤をどう育てるかについて学びます。現場では、結果の見えづらい健康指導ですが、子どもが将来どのように健康な生活を営むか、健康意識をもって生活するか、その基盤を作りたいと思います。人生にとって健康は大切です。子どもが「今日も体が気持ちよく動ける。たくさん遊ぼう」思えるように考えていきましょう。 学生自身の生活や健康への意識を振り返り、健康保持の方法を考え、健康への意識が高まるよう期待します。			
教科書	書名 演習 保育内容・健康 著者 河邊貴子 編著 発行所 建帛社	推薦図書	書名 楽しい運動あそび 著者 柳澤秋孝 発行所 株式会社ナツメ社	